

平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」における 木津中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 26 年 4 月 22 日（火）に、3 年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- （1）義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （3）以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・木津中学校では、3 年生 39 名

3 調査内容

（1）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・数学 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・数学 B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

（2）児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大 阪 市 立 木 津 中 学 校

生徒数

39名

平均正答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	77.5	43.9	59.8	48.0
大阪市	75.9	46.3	62.5	55.2
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

平均無解答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	4.7	5.1	6.3	13.2
大阪市	4.2	5.0	6.2	14.5
全国	3.1	3.5	4.3	10.9

結果の概要

◆教科に関する調査について

○国語Aでは、ほぼ全国平均に近い正答率となっている。国語Bと数学Aでは全国平均正答率を7ポイント程度、下回っている。数学Bでは全国平均正答率を11ポイント以上下回っている。
○平均無回答率は全国平均との差が1.6～2.3ポイント下回っているが、昨年度と比較すると平均との差が縮小しており、今年度の3年生は回答しようとする意欲は高いと考えられる。
○今年度の3年生については、数学により課題がある結果となった。生徒質問紙においても昨年度の3年生より数学への関心が低くなっている。

◆生徒質問紙調査について

○自尊感情、規範意識に関しては、昨年度の3年生と同様に、全国平均を上回っている。
○生活習慣に関しては、全国平均と比べても、昨年度の3年生と比べても、大きく下回っている。
○言語活動や読解力に関しても全国平均と比べると、大きく下回っている。
※調査対象人数が少ないため、単純に、全国・大阪市の平均や昨年度調査との比較等でその傾向を分析することは難しい。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

○本校では、これまで習熟度別少人数授業をはじめ、補充学習、放課後学習会や個別学習指導等、個々人の状況に対応したきめ細かな指導に努めてきた。国語Aや数学Aの「数と式」「図形」領域の結果が平均と大きな開きがないことから一定効果があると考えられる。そのため、今後も基礎・基本の定着のために継続して取り組んでいく。
○図書館の活性化や電子黒板等の活用で、話し合い活動や調べ学習の充実を図るなど、思考力・判断力・表現力を育むための取組が必要である。また、相互授業参観や研究授業を活用した授業方法の工夫改善にも引き続き取り組んでいきたい。
○自尊感情や規範意識に関して、肯定的な回答が多いことから、学校行事や特別活動等の取組を通じて、生徒が充実した学校生活を送れていると思われる。今後も一人一人に寄り添った生活指導を基本として、これらの取組の深化充実を図っていきたい。
○基本的な生活習慣や家庭学習の習慣の定着に向け、小学校とも連携しながら保護者への啓発を図っていく必要がある。

【国語】

結果の概要

- ・A問題全般としては全国の平均正答率と大きな開きはみられない。
- ・A問題の「話すこと・聞くこと」の領域では、全国の平均正答率を上回っている。
- ・B問題全般としては全国の平均正答率を7.1ポイント下回っている。
- ・B問題の中で「書くこと」の領域において全国や大阪市の平均を大きく下回っている。

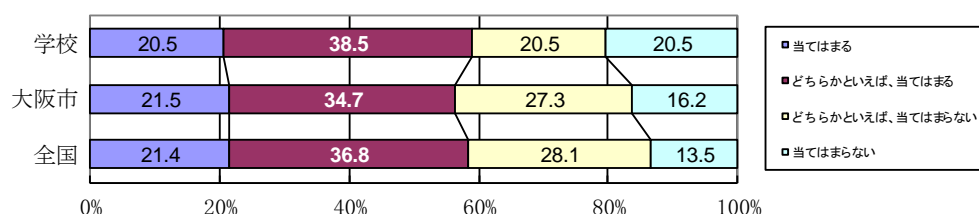
A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	75.0	68.5	72.3
	書くこと	6	80.8	80.6	83.4
	読むこと	5	81.5	81.8	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	75.7	74.3	78.7

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	—
	書くこと	3	25.6	33.6	41.0
	読むこと	8	41.7	44.1	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	47.4	51.3	56.8

国語に関する「生徒質問紙」

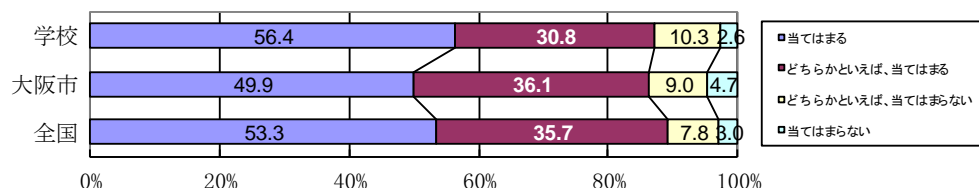
50

国語の勉強は好きですか



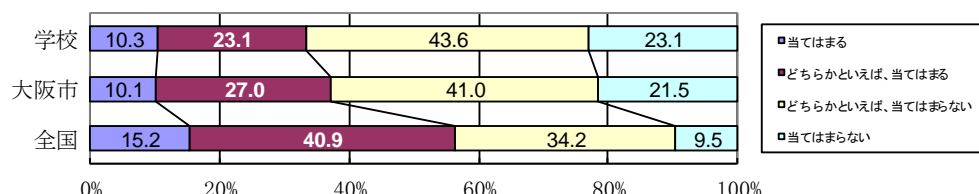
51

国語の勉強は大切だと思いますか



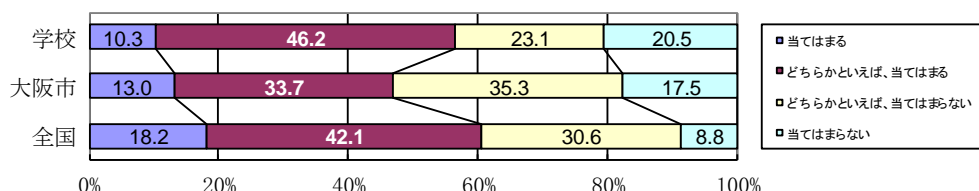
55

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57

国語の授業で自分の考えを書き、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題・今後の取組

- ・ほぼ毎日、漢字練習や漢字テスト勉強の宿題を課しており、ほぼ全員の生徒がその宿題をこなすよう指導している。そのことが「知識」に関する問題においても一定の成果として表れており、今後とも取り組みを継続していく。
- ・「国語の勉強が好き」、「国語の勉強は大切」と肯定的に考える生徒が多いことから、「知りたい」、「覚えたい」という興味関心を持たせる授業方法のさらなる工夫をする。
- ・自分の考えをまとめて書くことに苦手意識が見られるので、文章を書く機会を増やすなど、文章指導についても取り組んでいく。

【数学】

結果の概要

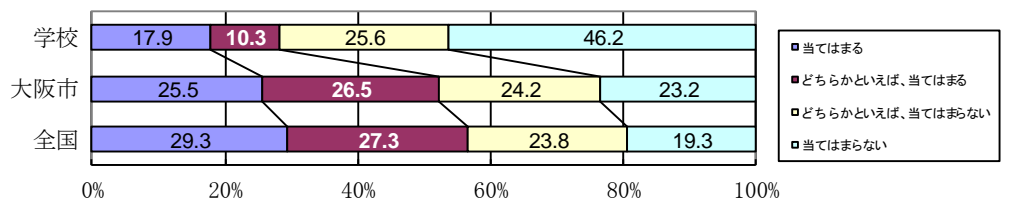
- ・A問題では「数と式」「図形」の領域で大阪市の平均正答率と5ポイント以内の差に収まっているもののすべての領域で平均正答率を下回っている。
- ・B問題では全国、大阪市の平均正答率を10ポイント以上下回っている領域もあり、特に「数と式」では大きく下回っている。

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と式	12	71.4	72.8	77.4
	図形	12	59.0	61.2	66.4
	関数	8	48.4	53.2	58.0
	資料の活用	4	50.0	54.0	59.1

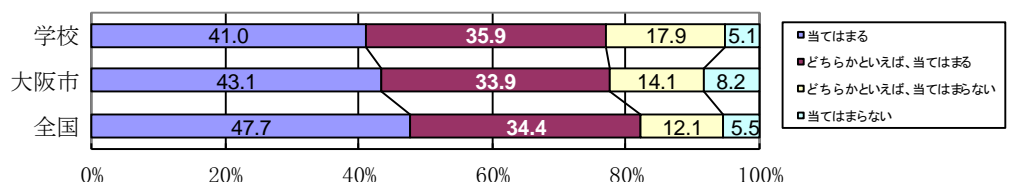
B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と式	3	39.3	52.1	56.9
	図形	5	49.7	55.0	58.6
	関数	5	53.3	58.5	64.4
	資料の活用	2	43.6	51.9	55.9

数学に関する「生徒質問紙」

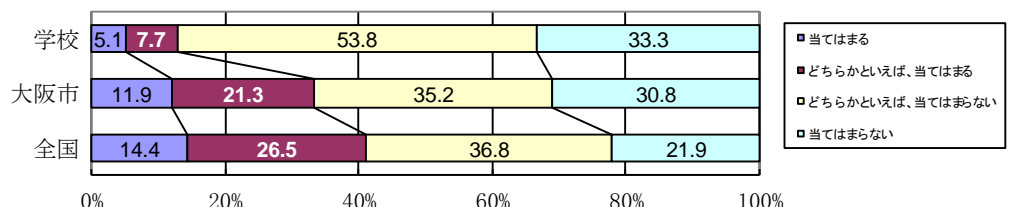
62
数学の勉強は好きですか



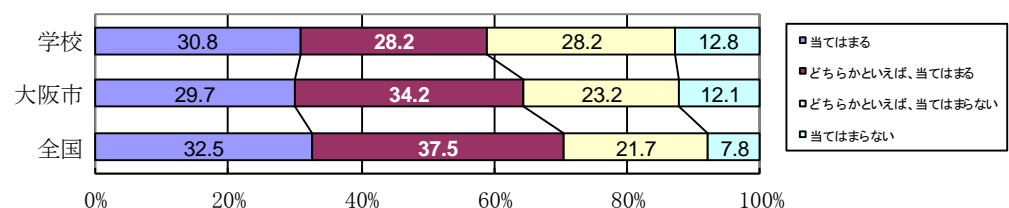
63
数学の勉強は大切だと思いますか



67
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



70
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



成果と課題・今後の取組

- ・「数と式」等の「知識」に関する問題で大阪市の平均正答率との差が少ないことから、基礎的な計算力や知識は、繰り返し学習することにより定着しつつある。しかし、同じ「数と式」領域でも「活用」に関する問題では平均正答率を大きく下回っていることから活用力に課題があることがわかる。演習にさらに力を入れて取り組んでいく。
- ・今年度の3年生は数学への苦手意識が強いことが生徒質問紙からわかる。そのため、数学に興味関心を持たせるために、さらなる教材研究に努めていく。
- ・基礎基本の定着に関しては、引き続き放課後の時間を利用した個別学習に取り組むとともに、宿題の出し方を工夫し家庭学習の充実を図る。

学びの充実に向けて

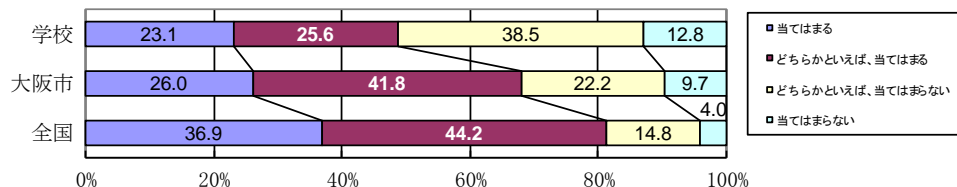
結果の概要

- ・「自分の考えを発表する機会が与えられている」「読書が好き」「話し合い活動の実施と充実」等の項目に関して、肯定的な回答が50%を下回っている項目が多い。
- ・学校の取組としても大阪市や全国の取組み具合に比べると低調である。

質問番号	質問事項
------	------

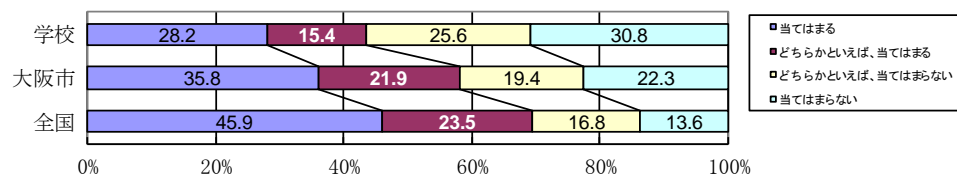
42

1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



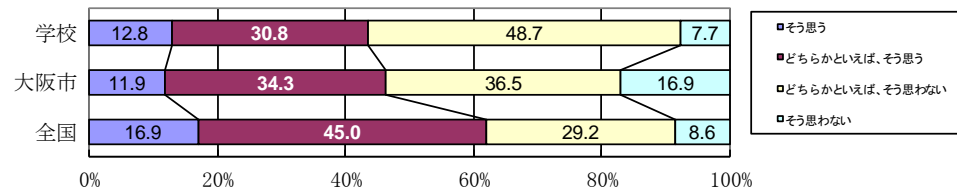
53

読書は好きですか



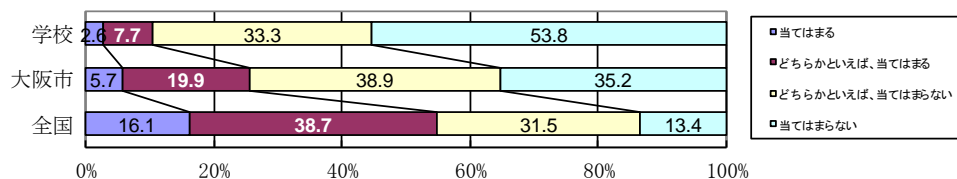
48

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



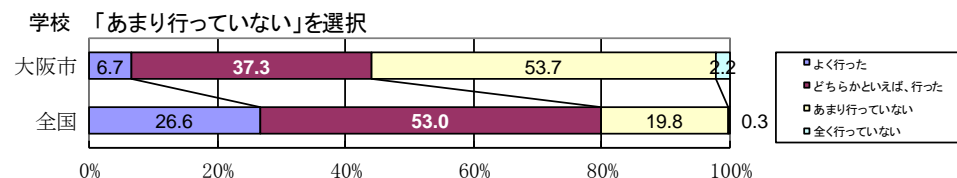
40

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



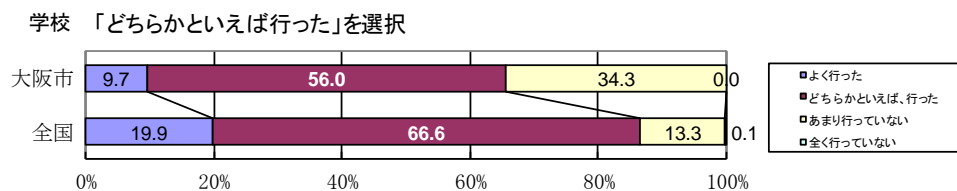
42 【学校質問紙】

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



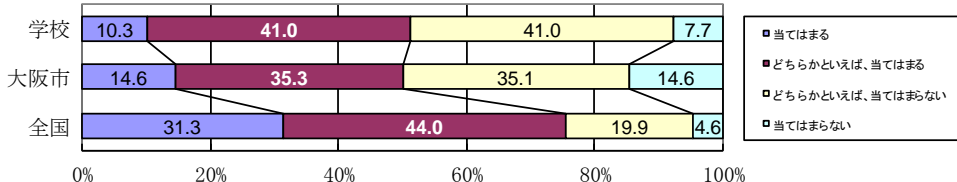
41 【学校質問紙】

自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



43

1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



成果と課題・今後の取組

- ・今後、ICT機器の整備を進め、各教科における話し合い活動や調べ学習等の機会を取り入れた授業づくりに努める。
- ・図書室の整備を昨年度実施しており、移動書架等の取組みも含めて、読書活動の活性化に努める。
- ・総合的な学習の時間や特別活動において、人権教育等に取り組んでいる。今後、さらにその内容の深化・充実を図る。また、道徳の時間にも読み物教材を中心に生徒の意見交換の機会を多く設けている。

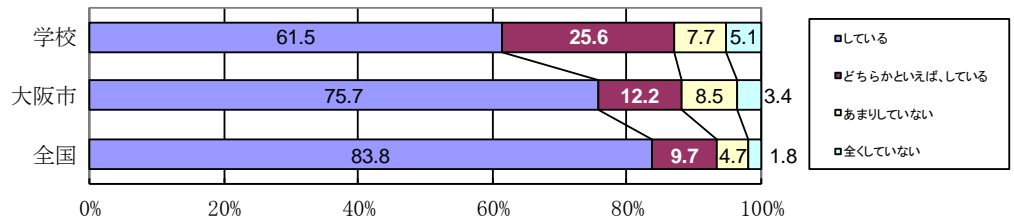
基本的生活習慣

結果の概要

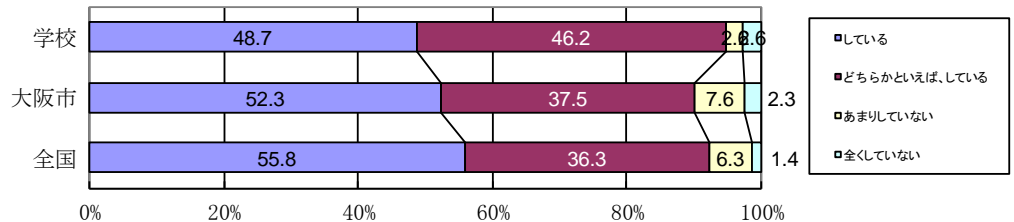
- ・起床時間に関して肯定的な回答が平均を上回っているが、そのほかの項目については、平均を下回っており、規則正しい生活を送っていない生徒が多い。
- ・携帯電話等の利用に関しては全体的に長時間利用している生徒が多い。
- ・ゲームに関しては、2極化が見られ、利用時間の長い生徒も多いが、利用時間の生徒も多い結果となっている。

質問 番号	質問事項
----------	------

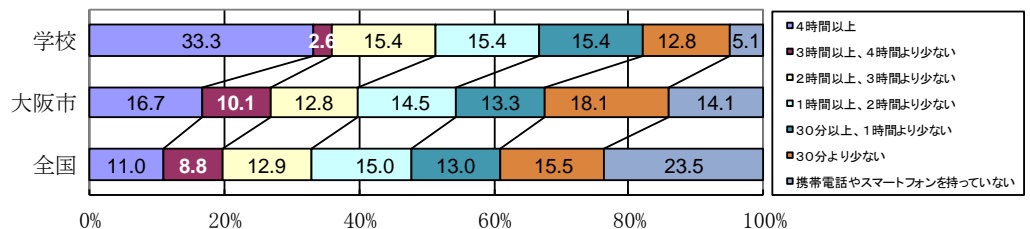
1
朝食を毎日食べていますか



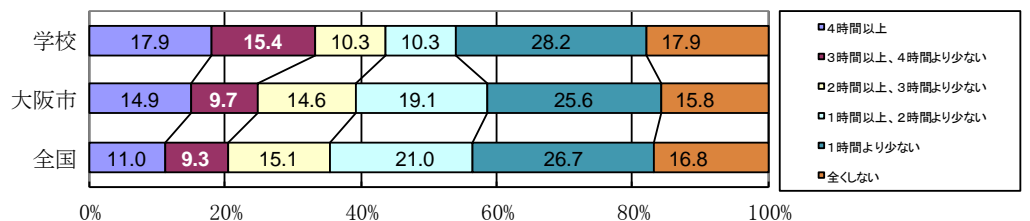
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)



12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



成果と課題・今後の取組

- ・起床時間が決まっていることに関して肯定的な回答が多いことから、学校に遅刻せずに登校するという指導の効果であると考えられる。このように学校の指導が基本的生活習慣に影響を及ぼすことから、今後も家庭との連携を深め、啓発活動を継続して行っていく。
- ・携帯電話やゲームの利用時間の多さは、家庭学習の習慣化の妨げにもなっていると考えられるので、保護者や生徒への指導・啓発を充実させていく必要がある。

家庭学習

結果の概要

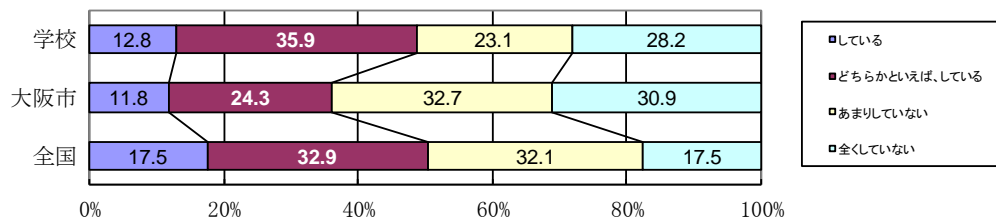
- ・宿題や授業の復習に関しては肯定的な回答が大阪市の平均を大きく上回っている。宿題に関しては全国と比べても大きく上回っている。
- ・自主的な学習に関しては肯定的な回答が30%程度と低い割合となっている。
- ・勉強時間は全体的に少ない傾向にある。

質問
番号

質問事項

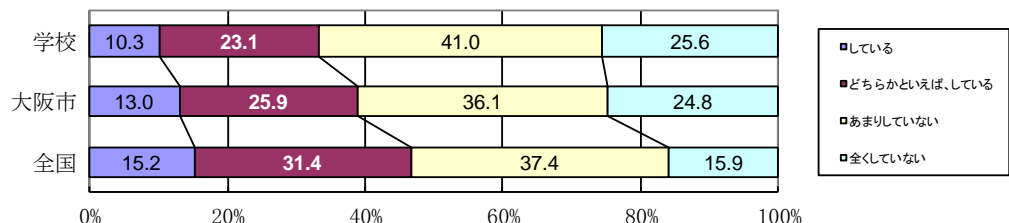
24

家で、学校の授業の復習をしていますか



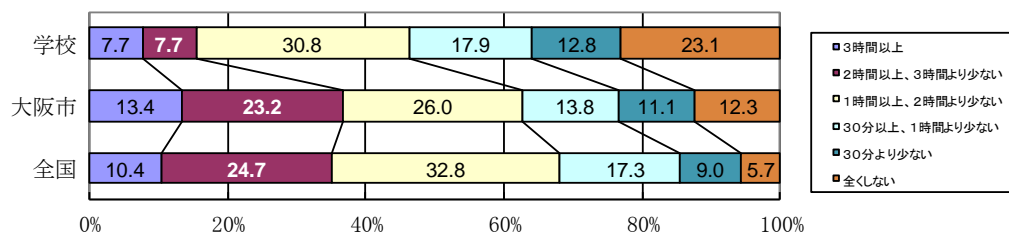
21

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



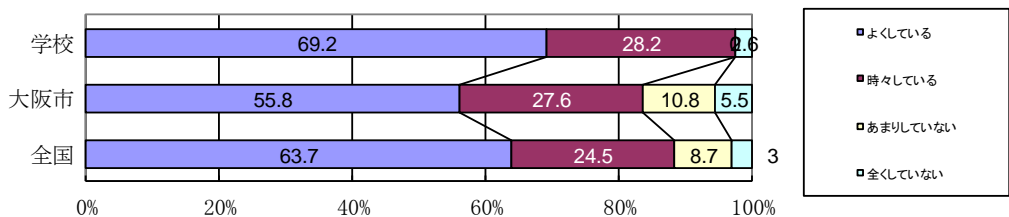
14

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）



22

家で、学校の宿題をしていますか



成果と課題・今後の取組

- ・多くの生徒が宿題に取り組めているのは、各教科の指導の成果であると思われる。今後も、宿題の出し方等も含めて継続して根気強く指導していく。
- ・自主的に学習する習慣がついておらず、勉強時間も少ないことから、家庭学習の充実を図ることが必要である。そのためには家庭の協力が不可欠であり、今後、学習面に関しての課程との連携を強めて、携帯電話やゲームの利用時間も含めて学習環境を整えていく必要がある。

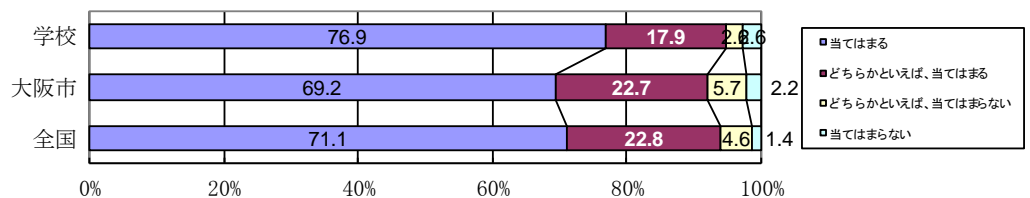
自尊感情・規範意識

結果の概要

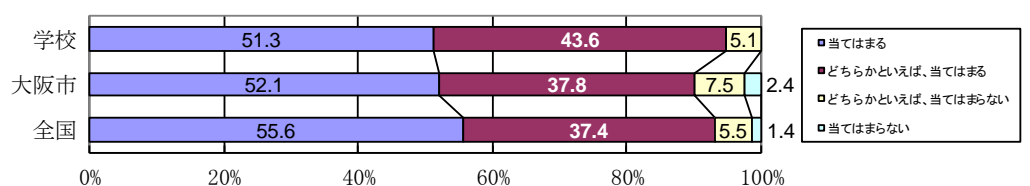
- ・自尊感情や規範意識に関する多くの項目で、肯定的な回答が、高い割合を示している。
- ・また、多くの生徒が学校での活動で成就感や達成感を強く感じており、承認の欲求も満たされている。

質問番号	質問事項
------	------

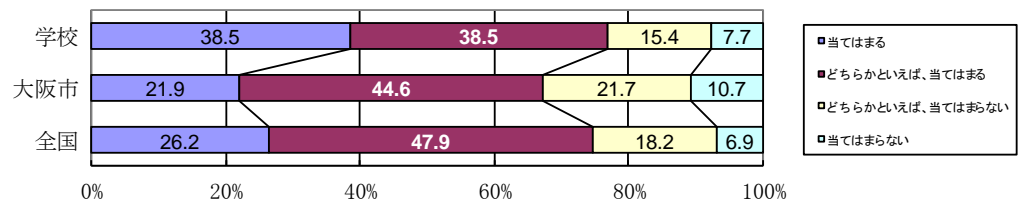
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



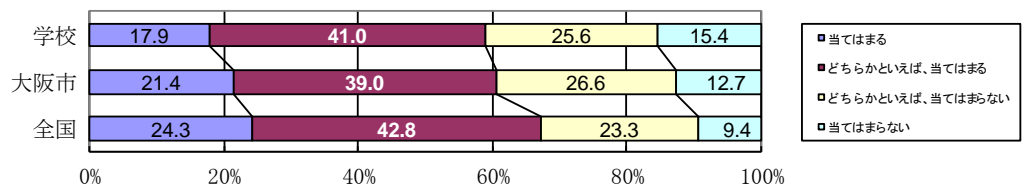
34
学校の規則を守っていますか



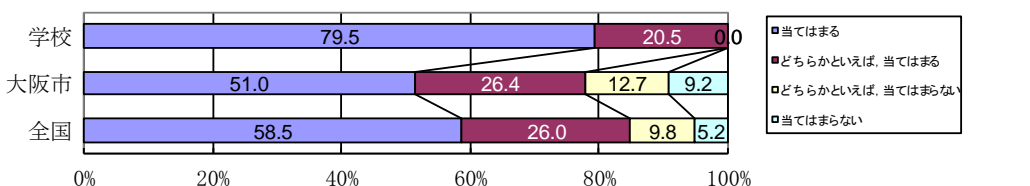
28
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



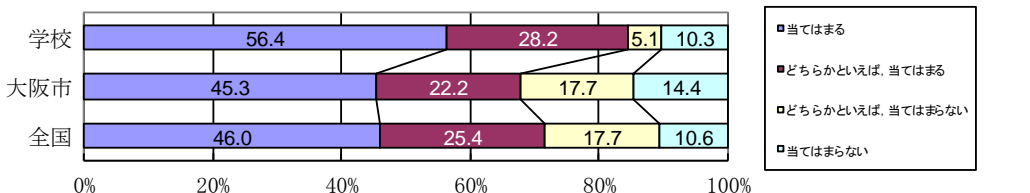
6
自分には、よいところがあると思いますか



27
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか



10
将来の夢や目標を持っていますか



成果と課題・今後の取組

- ・学校行事等の取組や学校生活の充実が、自尊感情や規範意識を育てていると考えられる。生徒が、これらの活動の中で自己有用感を感じていることから、今後もより多くの生徒が活躍の場を持てるよう教育活動の充実に引き続き取り組んでいく。
- ・安定した学校生活は学力向上の基盤であり、今後とも維持できるように取り組んでいく。

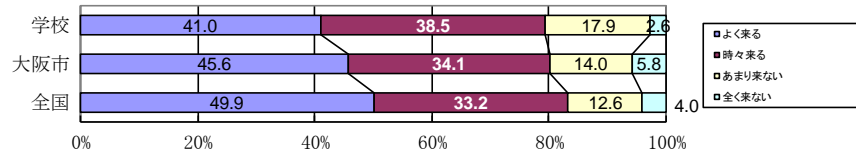
学校・家庭・地域の連携

結果の概要

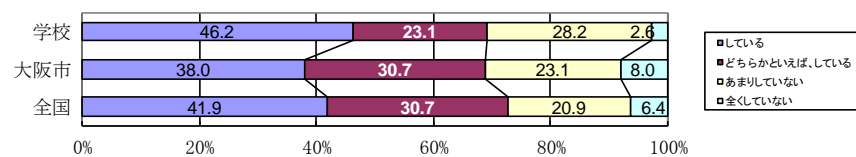
- ・家族との会話に関しては、肯定的な回答が70%ほどになっており、多くの家庭で家族間の会話があるのがうかがえる。
- ・学校行事への参加に関しても80%程度あり、学校への関心度を示している。
- ・地域への関心は全体的に低い傾向にある。

質問番号	質問事項
------	------

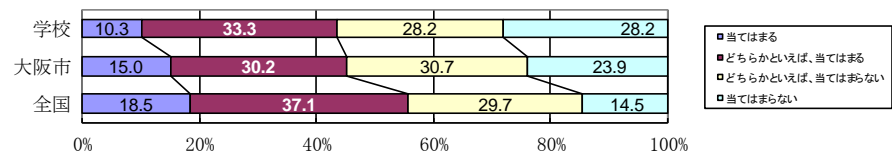
20
家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19
家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



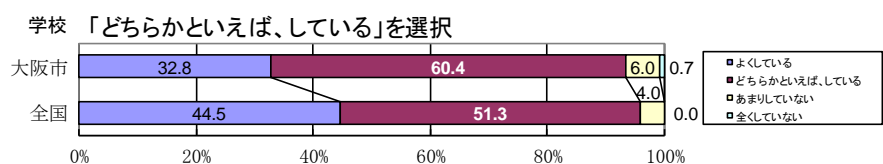
成果と課題・今後の取組

- ・学校行事への参加等はそれぞれの家庭事情が大きく影響するが、より学校教育への関心を持ってもらうために、周知等を工夫し、家庭との連携を図っていく。
- ・今後、土曜授業の実施や地域人材を活用した取組を充実させ、地域の一員であるという意識の向上につなげていきたい。

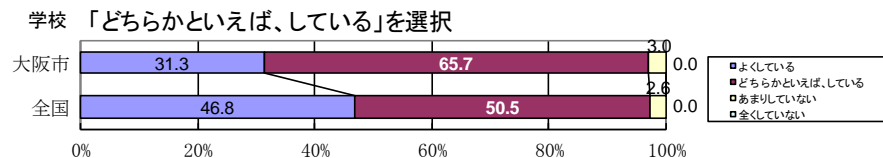
学校組織の改善

質問番号	質問事項
------	------

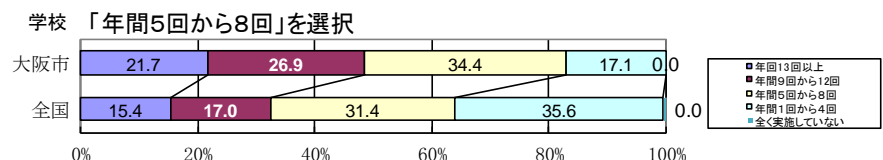
98【学校質問紙】
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



96【学校質問紙】
学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか



89【学校質問紙】
授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



成果と課題・今後の取組

- ・今後とも運営に関する計画をもとに、全教職員が学校の状況や課題を共有し、その課題解決に向けた組織的な取り組みを継続していく。
- ・授業方法の改善に向けた取組や研修会の充実をさらに推進していく。
- ・全国学力学習状況調査だけでなく、保護者生徒への学校独自のアンケート結果なども活用して、PDCAサイクルの確立を図る。